

数百年に一度の災害とされる東日本大震災の経験や教訓を長く伝えるために「語り部」として活動する人は多い。宮城県南三陸町と名取市閉上で活動する3人に、未来の日本人を津波から守るための取り組みを聞いた。

「日本中で親から子へ、子から孫へと東日本大震災の教訓が語り継がれるようにしないと、未来の命は守れない」

南三陸ホテル観洋（宮城県南三陸町）女将の阿部憲子氏は、こう話す。同ホテルは毎日、「語り部バス」を走らせている。

後の経験などを話しながら復興まちづくりの現状を説明し、再建途上の街を巡る。2012年2月

語り部

震災あの日から未来へ

最終部 未来への伝言 ④

戻し、地域社会に希望を見せたかった」と話す。南三陸町を同情される街ではなく、教訓を伝える使命を持った街にした。そんな思いだった。

震災発生からしばらくは宿泊客の大部分が復興事業の関係者だったが、最近では語り部バスに乗ることを目的に訪れる人も増えてきた。ホテル関係者以外で語り部活動をやる人も多い。「南三陸に住む一人ひとりが、教訓を伝える役割を担っている」と強調する。

の運行開始から、1日も休んだことはない。ホテルを挙げて語り部活動に取り組む理由について阿部氏は「震災で傷ついた故郷の誇りを取り

実際に経験した人は少しずつ減り続ける。未経験の人も語り部になれるよ

次代の担い手育成を



の伊藤文夫渉外部長には、爆者から話を聞き取り、危機感がある。バスの走行ルートであるホテル周辺の復旧工事が進み、津波で損傷した建物はほぼすべて撤去されている。「更地を見るだけでは、震災当時の風景を想像することが難しい」。伊藤部長など当日を経験した人は自身の記憶を語れるが、語り部もいつか世代交代する。「3・11を経験していない世代は、どうすればいいのか。ヒントは伊藤部長が訪れた広島にあった。『原爆ドームで被爆体験を伝える語り部は、戦争を知らない世代だった』。被害が起る国に住んでい

「世界の中で災害が起きてても、日本人だけは必ず避難して生き残るんだよなあ、と言われるように」

「世界の中で災害が起きてても、日本人だけは必ず避難して生き残るんだよなあ、と言われるように」

うな工夫が必要だ」語り部バスに乗って毎日マイクを握る同ホテル

右から南三陸ホテル観洋女将の阿部氏、伊藤渉外部長、ゆりあけ港朝市協同組合の桜井代表理事

「災後」の今こそ 教訓伝承が重要 戦後の平和が長く続いているのは防衛や外交、教育などの成果だ。「災後」の我々も防災や国際連携、教訓伝承を進めなければならない。それでも自然災害は戦争とは異なる。人間の力では止められない。次の大災害が起きたとき、被害を抑えるため真っ先に動き出すのは、教訓を伝え続けた東北人だと信じている。（仙台支局 村松進）

「災後」の今こそ 教訓伝承が重要 戦後の平和が長く続いているのは防衛や外交、教育などの成果だ。「災後」の我々も防災や国際連携、教訓伝承を進めなければならない。それでも自然災害は戦争とは異なる。人間の力では止められない。次の大災害が起きたとき、被害を抑えるため真っ先に動き出すのは、教訓を伝え続けた東北人だと信じている。（仙台支局 村松進）

「災後」の今こそ 教訓伝承が重要 戦後の平和が長く続いているのは防衛や外交、教育などの成果だ。「災後」の我々も防災や国際連携、教訓伝承を進めなければならない。それでも自然災害は戦争とは異なる。人間の力では止められない。次の大災害が起きたとき、被害を抑えるため真っ先に動き出すのは、教訓を伝え続けた東北人だと信じている。（仙台支局 村松進）

「災後」の今こそ 教訓伝承が重要 戦後の平和が長く続いているのは防衛や外交、教育などの成果だ。「災後」の我々も防災や国際連携、教訓伝承を進めなければならない。それでも自然災害は戦争とは異なる。人間の力では止められない。次の大災害が起きたとき、被害を抑えるため真っ先に動き出すのは、教訓を伝え続けた東北人だと信じている。（仙台支局 村松進）

「災後」の今こそ 教訓伝承が重要 戦後の平和が長く続いているのは防衛や外交、教育などの成果だ。「災後」の我々も防災や国際連携、教訓伝承を進めなければならない。それでも自然災害は戦争とは異なる。人間の力では止められない。次の大災害が起きたとき、被害を抑えるため真っ先に動き出すのは、教訓を伝え続けた東北人だと信じている。（仙台支局 村松進）

支局	盛秋青仙
台	00112
森	00117
田	00118
岡	00119
00	00120
11	00121
17	00122
18	00123
19	00124
20	00125
21	00126
22	00127
23	00128
24	00129
25	00130
26	00131
27	00132
28	00133
29	00134
30	00135
31	00136
32	00137
33	00138
34	00139
35	00140
36	00141
37	00142
38	00143
39	00144
40	00145
41	00146
42	00147
43	00148
44	00149
45	00150
46	00151
47	00152
48	00153
49	00154
50	00155